知的財産

知的財産重視

富士通では、全社員の行動の規範を定めた"The FUJITSU Way"のなかでも「知的財産を保護します」と明確に定めており、全社員が、知的財産が企業活動を支える重要な経営資産であることを理解し、その権利の法的意味をよく認識した上で、権利の取得・確保、活用に努め、自社の権利を守ると共に、他社の知的財産を尊重しています。

- **意図せざる流出防止を含む、情報管理の徹底**
- **形のないもの(知財)を財産として保護していく文化・風土づくり**
- **知財の権利侵害に毅然とした態度で臨むという風土づくり**

知的財産戦略

当社の事業・研究開発と一体となった知財戦略を推進するという観点から、次の5つをポイントに知財戦略を推進しています。

1) 戦略的な権利(産業財産権・著作権、トレードシークレットなど)の取得・維持・管理・活用
2) 権利尊重(他社特許の侵害回避)
3) 情報管理の徹底(社内規定の整備、教育の実施、定期的なチェック体制)
4) 政策提言のための社外活動(経団連、JEITAなど)
5) 戦略的な人材の育成

■ 事業の競争優位性の確保
知的財産を積極的に確保し、より効果的に商品・サービスの差別化を図っています。

■ 事業の自由度の確保
より良い条件で他社と提携し、事業の自由度を確保・展開するため、強い知的財産の取得に取り組んでいます。

■ 事業収益の確保
実施料獲得を目指す権利活用を含め、専門的な部門による積極的な技術営業を通じて活用を図っています。

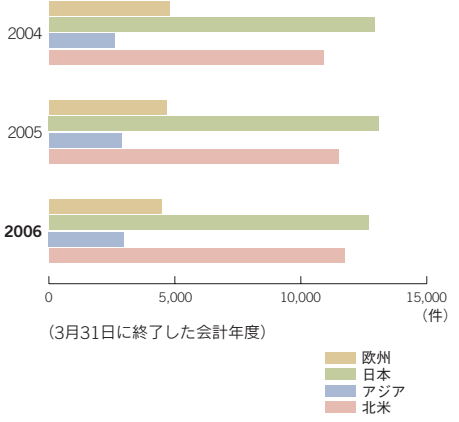
1. 特許権

(1) グローバルな特許ポートフォリオとその推進体制

日本を中心にした、グローバルな特許推進活動のもと、欧米のみならず、中国・韓国・台湾を中心にアジアにおいても有力特許の取得に取り組んでいます。

米国・欧州・中国などの海外の開発拠点における発明の抽出にも積極的に取り組み、ポートフォリオの強化を図っています。

■ グローバルな特許ポートフォリオ



(3月31日に終了した会計年度)

■ 2005年国内登録件数

1	松下電器産業(株)	3,913
2	(株)東芝	2,874
3	キヤノン(株)	2,389
4	セイコーエプソン(株)	2,236
5	(株)日立製作所	2,084
6	三菱電機(株)	1,938
7	日産自動車(株)	1,906
8	シャープ(株)	1,784
9	ソニー(株)	1,694
10	(株)リコー	1,674
11	三洋電機(株)	1,544
12	**富士通(株)**	**1,511**
13	本田技研工業(株)	1,463
14	(株)デンソー	1,418
15	トヨタ自動車(株)	1,411
16	松下電工(株)	1,197
17	日本電信電話(株)	1,146
18	三菱重工業(株)	1,060
19	日本電気(株)	991
20	富士写真フイルム(株)	934

登録公報発行日カウント
特許庁公開データによる自社調査

■ 2005年米国特許登録件数

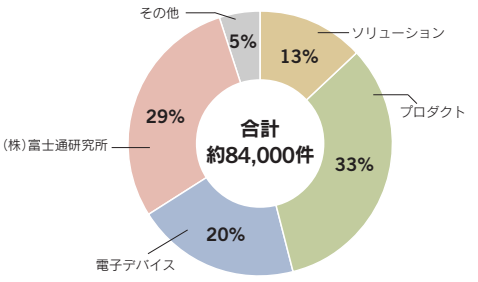
1	IBM Corporation	2,972
2	キヤノン(株)	1,837
3	Hewlett-Packard Developmant Company, L.P.	1,801
4	松下電器産業(株)	1,720
5	Samsung Electronics Co., Ltd.	1,645
6	Micron Technology, Inc.	1,561
7	Intel Corporation	1,551
8	(株)日立製作所	1,293
9	(株)東芝	1,288
10	**富士通(株)**	**1,168**
11	ソニー(株)	1,149
12	General Electric Company	906
13	セイコーエプソン(株)	888
14	Infineon Technologies AG	804
15	Koninklijke Philips Electronics N.V.	767
16	Robert Bosch GmbH	758
17	富士写真フイルム(株)	755
18	Microsoft Corporation	746
19	Texas Instruments Incorporated	736
20	本田技研工業(株)	730

公報発行日　全出願人カウント
出典：IFI CLAIMS Patent Services 社データ

(2) 重点テーマに基づく特許推進活動

事業分野ごとに重点テーマを決めポートフォリオの強化を図っています。ASPサービスとして一般向けにも提供している特許情報検索システム(ATMS/IR.net)を活用し、技術動向調査、特許マップなどにより戦略的特許取得を図っています。

■ 登録特許ビジネスグループ別比率
(2006年3月期)



■ 2006年3月期の主な実績

サーバ(PRIMEQUEST/PRIMEPOWER):
プロセッサ、バスアーキテクチャー関連を中心に国内外で年間600件以上の特許出願。

光伝送システム:
最先端のWDM技術(All光スイッチング)、次世代の超高速光伝送技術(40G)について国内外で年間250件以上の特許出願。

次世代ネットワーク(WiMAX、3.5Gなど):
富士通の強みを活かし通信・半導体など当社保有技術を集約し、標準化活動に参画。国内外で年間100件以上を特許出願。

半導体微細化技術(45nm以降):
高速化技術、配線/プロセス、低消費電力を重点に権利化。06年3月期約60件を出願。

基幹IAサーバ「PRIMEQUEST」

光伝送システム「FLASHWAVE」

(3) ライセンス活動

事業の自由度確保のためのクロスライセンス契約や、当社のみで事業化を目指すよりも広く技術を公開する方がより技術を活かせると判断したものについて、様々な形で公開し、現在500件以上の特許ライセンス契約を締結しています。

2. 他社権利の尊重

他社権利の侵害は、高額な実施料の支払いのみならず、最悪の場合には事業機会の損失など経済的に大きな損害をもたらします。そればかりではなく、商品・サービスの提供に支障をきたすことは、お客様に多大なご迷惑をおかけすることになります。他社権利を尊重する風土づくりと共に、他社権利の調査ができるよう、ATMS/IR.netを全技術者が使用できる環境を整えています。

3. ブランドの保護

コーポレートブランドである「FUJITSU」については、お客様に信頼されるブランドとして育成すべく、そのブランド価値の維持・保護に取り組んでいます。富士通グループ会社による統一的な使用ルールを明確にすると同時に、グローバルな事業展開に支障をきたすことがないように世界で150を超える国々で商標登録し、その保護に努めています。なお、昨今、無断で「富士通」を使用している例が中国にて発見されました。このような件については、当社ブランド保護の観点から、必要な措置をとっています。

知的財産に関する活動を皆様にご理解頂くために、「知的財産報告書」を作成いたしました。下記サイトに掲載しています。
http://pr.fujitsu.com/jp/ir/library/